

◆第9週（2月28日（月）～3月6日（日））

三寒四温というより一寒一温。毎日の気温差が激しい。それどころか朝晩と日中でも10度近い差がある。今週から弥生だが、春遠からじという気候が続いている。それでも、関東地方は5日に昨年より1ヶ月遅れの春一番が吹いた。

週の前半は来客相談や原稿・レポートの執筆などで社内にいることが多かった。逆に後半は、委員会への出席やリーダー研修などで、都心や郊外へ出かける。

来客の相談内容は、相続対策や資金調達など様々である。特に長期戦略としての不動産の相続対策では、個人所有の土地に建つ収益力のある賃貸物件（建物）の所有者を誰にするかは大きな課題となる。なぜならば、長期戦略においては、遺産分割、相続税の算定、さらには、納税や返済資金の捻出においても、誰が収益物件の所有者であるかは大きなテーマになるからだ。

たとえば、同族法人を建物所有者とすると、個人地主との地代契約には11種類の方法がある。この11種類のどれを選ぶかについては個人の収益力、資金力、家族構成、財産構成だけでなく、法人の財務状況、株主構成、収益力、資金力などを検証すると、100者100様の考え方が生まれるはずだ。ちなみに、短期の相続対策は、揉め事を生み出すだけなので、基本的に請け負うことはない。

スタートアップ企業からのエクイティファイナンスの相談もあった。ITを活用して時間と空間の活用法によって付加価値を生み出すという時代の流れにフィットした事業である。ビジネスモデルを9マスにまとめると共に、ビジネスプラン（事業計画）への落とし込みをしてもらうこととした。期待できる仕組みのように感じる。

委員会への出席とは、技能検定試験の2022年度試験員会である。毎年3月初めにそれぞれの科目の責任者5人（大学教授、弁護士ら）が今年の方角性について意見を述べる。前年の難易度が少し高かったようで、今年はどうするかがポイントになった。既に20年間にわたり試験委員の重責を担っている。

顧客企業のリーダー研修のテーマは「塩見流仕事術」。「95年現象」から26年を経て、現実の時代の流れがどのように動いてきたか、その流れを汲み取ってこれからの25年をどう考えるのかは「何の為に働いているのか」を考える際にも鍵となるだろう。モチベーションの高い20人近いリーダー候補生との質疑応答は大変楽しい時間となった。

それにしても気になるのはウクライナ情勢である。トップがだめなら全部がだめになる。中小企業の経営も全く同じであることを理解しておくべきだろう。

3日のひな祭りを経て、4日からは北京パラリンピック冬季大会の開幕である。五輪憲章では、オリンピック、パラリンピック期間の前後7日間は休戦とされているにもかかわらず、プーチンは堂々と世界との約束を破っている。

春嵐 北の大地を暖めろ⑨

